

島根県松江市に本社のある株式会社第一コンサルタントは、建設コンサルタント業として、道路や下水道の測量設計を行う従業員 20 人ほどの企業だ。1971 年の創業から一貫して公共工事に携わり、下水道の管路や浄化処理槽の設計では県内トップレベルの実績を誇っている。しかし、近年、土地造成などの大規模工事が激減。公共工事も少なくなり、建設コンサルタント業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりだ。そんな中で突然、同社は全国に名を知られる企業へと変身した。下水道の設計に代わる新たな事業の柱を模索していた島田隆久社長が、社内プロジェクトを組み、牛糞や下水汚泥を高遠で堆肥化する画期的な装置を開発したためだった。



島田社長は、1939(昭和 14)年に生まれた。実家は島根県だが、公務員の父親が鹿児島県に転勤していたときに生まれた島田社長は、西郷隆盛から 1 字を取って隆久と名付けられた。戦後、公職を退いた父親が島根県松江市に落ち着き、島田社長はここで成長した。立教大学経済学部に進学した島田社長は、卒業後、東京で鉄鋼関係の商社に就職した。結婚し、東京の一等地に建つ公団住宅に当選。普通なら順風満帆といったところだ。しかし、これが島田社長の転機となった。当たったのは 14 階。一生地面のない生活をするのに耐えられなかった島田社長は、一切を捨てて帰郷を決意した。1971 年、33 歳の時だった。松江市に帰った島田社長は、第一コンサルタントを創業し、公共事業の測量や設計の請け負いを始めた。やがてボーリング調査や用地買収の補償コンサルタント、一級建築士事務所と仕事の範囲が広がった。島根県下で普及が避れていた下水道に的を絞ったのが功を奏し、会社の業績は次第に伸びていった。バブルの崩壊後も、政府の公共事業投資が幸いし、インフラ整備の方面では比較的工作があった。加えて島根県には県単独事業があり、3 年前までは順調に推移した。その後、急激に公共事業が落ち込み、出口の見えない状態が続いている。先見の明がある島田社長は、いつかこの日が来ることを見越して、1994 年からある計画に着手していた。

きっかけは、松江市の隣の鹿島町から汚泥などの処理方法のコンサルタント依頼を受けたことだった。生ゴミ、畜糞、水産加工所のアラ、下水汚泥などあらゆる廃棄物の処理方

法と機種処理能力を調べ上げ、3社を選定した。しかし、いずれも安く大量に処理できる装置とは言い難く、市場参入の余地があるのではないかとの思いが芽坐えた。

その後、畜糞の堆肥化装置に的を絞って研究を重ねた島田社長は、ドラム装置の中に格子状の攪拌スクリーンを設ける方法を考案した。通常、畜糞に水分調整のためのおが屑などをまぜ、これを発酵させるためにたえず切り返しを行わなければ有機堆肥はできない。島田社長の考案した装置は、小型であるうえに畜糞が粒状化されるので切り返しがいらない。さらに独自の発酵槽で温風を供給し、通常は3~4カ月かかる有機堆肥が、2~3週間でできるという画期的なシステムだった。

しかし、試作機の開発に費金を投入する段になると、役員たちから大反対が巻き起こった。島田社長は「いざとなれば開発費は私個人が負担する」と反対を押し切り、本格的な開発に踏み切った。発売までには紆余曲折があった。水分調整手法(粒状化)と発酵槽の双方で特許を取得したが、弁理士の先生からもっとデータを取るようにとアドバイスされた。島田社長は広島大学の堆肥研究会に参加し、さらに広島大学の教授に研究費を出して発酵の共同研究を始めた。2001年6月、満を持して高速有機物発酵装置「Cモード」の発売が開始された。コンパクトで処理能力の高い「Cモード」は、畜糞を80℃の高温で急速発酵させる。また、通常24時間で無臭化するが、これは堆肥中の雑菌を殺すからで、このため有機堆肥に多い雑草の発生がない。冬季の冷え込みにも強く、北海道への出荷例もある。畜糞のほかに下水汚泥も有機堆肥化するので、循環型社会の形成に役立つ製品だ。



「Cモード」の反響は人きかった。中小企業優秀新技術・新製品賞や中国地域ニュービジネス特別賞を受賞し、マスコミの取材も相次いだ。しかし、島田社長の表情は、「ご購入いただいたお客様が、堆肥コンクールで優勝した」といった話題の時に一番ほころぶ。今年の元旦には、「Cモード」の堆肥を使ったことで、地元の牡丹園

にかつてない大輪の花が咲き、まるで造花のように美しいという話題が、NHK ラジオの経済特番で紹介された。

発売2年で十数台を売った「Cモード」だが、冬季でも均一な堆肥ができるとあって、全国各地から引き合いが増えている。これから本格的な全国発売に向かう予定で、輸出を視野に入れて米国特許も取得した。

また、昨年度より、下水(農業集落排水)処理施設に汚泥堆肥化施設の併設計画が義務付けられるなどの国の方針が打ち出されたことも、追い風になっている。同社では汚泥関連事業の足がかりとして、(社)日本農業集落排水協会の機種選定に採択され、認定を受けるなど準備を進めてきた。株式会社第一コンサルタントの強みは、「Cモード」の導入に際し

て、施設全体の測量や設計を包括したプラント化のコンサルティングが行える点だ。島根県松江市の環境ベンチャーは、いま、大きな飛躍の時を迎えようとしている。